
 投稿論文審査委員長からのメッセージ

「日本品質管理学会の発展と投稿論文の意義」



東京理科大学 理工学部
教授 尾島 善一

日本品質管理学会は、ANQなどの国際活動や研究発表会、シンポジウム、事業所見学会など多彩な活動を行っています。学会の活動に対応して、品質管理分野での同業の人々との交流の場としての価値を見いだしている会員もいるでしょうし、自分の研究成果を発表する場と考えている会員もいれば、品質管理に関する最近の動向の情報源として利用している会員もいることと思われまます。

さて、いうまでもないことかもしれませんが、日本品質管理学会は学術団体です。すなわち、日本品質管理学会の存在の根拠は品質管理に関する学術団体であることに基づいています。特に、文部科学省所管の社団法人であるということは、それだけの価値を有していることを意味しているといえるでしょう。

一般に学術団体にとって、“複数の査読者の査読を経た学術論文”を掲載する論文誌を発行することは基本とされています。現在、「品質」誌に“投稿論文”として掲載されている部分が、論文誌としての役割を担っています。いわば学術団体としてのバックボーンなのです。この“投稿論文”を担当しているのが投稿論文審査委員会です。近年は投稿論文の数もやや増加する傾向にあるようですが、実際に掲載される論文の数は他の学会と比較すると、かなり少ないことを認めざるを得ません。

投稿論文に関する業務は、基本的に受け身的です。論文が投稿されることによって、審査が開始され、論文改訂・改訂された論文の再査読などが進行し、採否の決定に至るプロセスです。このプロセスでは審査における公正さの確保が最も重視されています。公正さを守るために、査読者には著者名を伏せて審査を依頼

し、著者にも査読者名は伏せて結果を報告するという方式が採られています。また、投稿論文審査委員会での審議においても、委員の中に著者の関係者がいる場合には、その委員が退席して審議が行われます。

このプロセスでは論文が投稿されないと、すべてが始まりません。これまでも論文投稿の呼びかけなどが行われていますが、残念ながら目を見張るような効果は出ていないようです。

一般に論文誌の場合には、「どのような論文が掲載されているか」が、新たな論文投稿のきっかけにつながります。良い論文を数多く掲載すれば、さらに多く良い論文が投稿されることが期待されます。

上にも書きましたように、学術団体としての日本品質管理学会のバックボーンが投稿論文です。日本品質管理学会の会員の皆さまには、学会の発展のために、ぜひ論文を投稿していただくようお願いいたします。また、これまで掲載されていない主題や方法論の論文も大いにご投稿下さい。新たな主題の論文投稿が学会の新たな分野を発展させていくのです。

最後に、投稿する論文が、審査期間も短く済んで、採択されるコツの一つだけお知らせしましょう。それは論文を“読みやすく・解りやすく”書くことです。著者にとって明白なことでも、読者にとっても同じように明白とは限りません。査読者も受け取ると直ぐに読んでみようとするようです。そこで、読みにくいと思われると審査が長引きます。さらに改訂要求が出ることも、却下されることもあります。

会員の皆さまには、ぜひ“読みやすい・解りやすい”論文を、一つでも多く投稿していただくよう、あらためてお願いいたします。